

■「司令塔、夏に鍛える－1部6校のQBたち」③

「パスを決めまくる」

山本 康介（北海道大、3年）

北海道大の春季オープン戦3試合の最終戦となった北海学園大戦から2週間近くたった7月29日、札幌市北区の北海道大学北24条グラウンドでビッググリーンの練習が始まった。猛暑日一步手前まで気温が上がったこの日、練習開始時刻を2時間遅らせた午後3時でも32.7度の熱気に包まれ、休憩と水分補給を丹念に繰り返しながらのトレーニングになった。QBとバックスのユニットでは今季から先発を務めるQB山本康介（3年）がハンドオフの練習を繰り返した。水分を補給すると今度はパス練習。オープン戦で得た自信が伝わる剛球が次々と右腕から飛び出した。

奈良県の奈良学園登美ヶ丘高出身。父親がアメフト好きで、関西学生リーグ観戦に連れて行かれて興味を持ったという。大学に入学すると迷わずにアメフト部へ。182センチ、83キロの恵まれた体と野球で培った肩を生かせるポジションとしてQBを希望。控えQBとして2年間、腕を磨いてきた。昨年秋の道学生選手権の北星学園大戦では第3Qから出場して2TDパスを含む6TDを演出して成長をアピールした。

迎えた今季。先発初戦となった5月の東北大とのオープン戦は、緊張で思うようにプレーが出来なかった。7月2日の関東学生1部ビッグ8の横浜国立大戦の歴史的勝利も、途中出場の後輩QBの神田智史（2年）に主役の座を奪われた。それだけに7月16日の北海学園大戦は気合いが入った。第2Q、自陣32ヤードからショートパスを連続で決めて前進し、FGで先制。第3Qも自陣36ヤードからパスを連投してRB宮崎大地（4年）の31ヤードTDラン、味方守備のインターセプトで得た好機もショートパスとRB宮崎の2本目のTDランで17-7の勝利を呼び込んだ。「パスの精度が上がった」と快勝を振り返りながら「夏場の練習で精度をもっと上げたい。少ないチャンスでも点を取れるように勝負所で決めたい」と意気込む。

後輩QBの存在も「神田は足が使えるQBでタイプが違う。負けたくない」と発憤材料にする。「全道制覇の先の全日本学生選手権で中京大、東北大に勝つのが目標。得意のパスを決めまくりたい」と力をこめた。

